

CONTENTS

2008 / 2009
Governor's Monthly Letter

1 ロータリー雑誌月間 によせて ガバナー横山 守雄	2 ロータリー雑誌月間 にあたって ロータリーの友地区委員 益田 照夫	3 I M 第5組報告 実行委員長 中山 正隆
4 米山奨学生終了者 歓送会 地区米山奨学委員会 委員 磯田 郁子	5 DDFシェア会議報告 地区ロータリー財団委員会 副委員長 福家 宏	7 GSEフランス派遣団 報告 地区研究グループ 交換委員会 委員長 野村 正勝
8 - 12 職業奉仕を語る (X) RI元理事 パストガバナー菅生 浩三	13 台北百齡RCとのマッ チンググラント報告 ガバナー補佐 佐々木 宏 (大阪大手前RC)	14 ローターアクト報告 地区ローターアクト 代表 森本 秀樹
15 米山奨学委員会 米山功労者・米山功労クラブ	16 ロータリー財団 ポール・ハリス・フェロー ベネファクター	17 文庫通信 (258号)
18 2009年2月度 会員数・出席報告	19 お知らせ／敬弔	20 月信編集委員会 ガバナー事務所

4月は「ロータリー雑誌月間」です

国際ロータリー第2660地区

ガバナー **横山 守雄**

ロータリーは今や200カ国以上に存在しておりますので、ロータリアンの皆様は、世界の各国にそれぞれ「ロータリーの友」と同じような機関誌があるのではとお考えになるかもしれません。しかしながら、世界にはRIの公式機関誌であります「The Rotarian」と、その他には僅か31の地域雑誌しかありません。日本の「ロータリーの友」が1953年以来、今年4月までに半世紀以上に亘り、676号発行されてきたということは、内容的にも、またコスト的にも、読者の継続的な支持が得られるように、先輩ロータリアンや編集関係者が、大変な努力を積み重ねてこられた一つの証でもありましょう。

この月間に際し、ロータリアンは「ロータリーの友」などの機関誌に対する認識を深め、ロータリー情報の普及を図るよう推奨されていますが、「ロータリーの友」には、他クラブや他地区の様々な活動、そしてRIや財団の最新のニュースなどが満載されております。自クラブの次の活動計画の作成や、会員自身の勉強のためにも、ロータリーの情報誌は貴重な存在です。印刷された紙面は、情報伝達と記録手段としては一つの大きな存在価値がありますが、現代社会においては、情報の電子化が日進月歩で進んでおります。「ロータリーの友」も並行

的に「Rotary Japan」というホームページを持ち、ロータリアンに対し迅速な情報提供を行っております。会員の皆様が、「Rotary Japan」や「RI第2660地区」のホームページをより一層ご利用されることをお奨め致します。

一方、日本のロータリアンの数は、ここ10数年の間に30%近く減少しております。「ロータリー雑誌月間」の主旨が、単にロータリー情報の内部普及を図るということだけでは進歩がありません。近年、RIも財団も「ロータリーの広報」に、クラブや地区が力を注ぐように推奨しております。ロータリーの活動を広く一般社会へ向けて発信して行くことがこれからの時代においては大変重要です。「ロータリー雑誌月間」という呼称や内容も「ロータリー広報月間」へと、この面でも一つの変革が必要な時代になっているのではないのでしょうか。各クラブにおかれましても、自分達の活動を、それぞれの地方紙や或いはインターネットを通じて、クラブ会員ご自身の手で、幅広く社会へ発信されることをこの月間を通じて改めてご検討いただきましたら幸いです。それによって各クラブの一層の強化が図られて行くものと思います。



ロータリーの友地区委員

益田 照夫

(大阪中央RC)

毎月送られてくる「ロータリーの友」につきまして、皆さんはよくご存知のことと思いますが、はたしてそれが良く読まれているかと言いますと、いささか心もとないというのが一般的ロータリアンだとも思います。

その「ロータリーの友」はRIが認定した、地域雑誌です。その購読はロータリアンの会員身分保持の条件とされております。意義目的は、ロータリアンがロータリーライフを深める為のツールであり、所属するクラブが国際ロータリーと直結していることを認識出来るものでもあります。

編集に携わっている組織は、全国ガバナー会の管理下にある「ロータリーの友委員会」が管理運営しております。組織のメンバーは役員以下パストガバナーで成っております。それに、全国、全地区の現ガバナーの代理として任命された「友委員」34名が加わります。それらのメンバーが年5回、東京の「友」事務所に集まり、ガバナーの意向を伝えながら様々な討論、意見交換などをして、編集参加の形をとります。

「ロータリーの友」は1953年の創刊で既に50年を超えております。

創刊は戦後、日本のロータリーが1949年

に国際ロータリーに復帰後、東西2地区に分割されたのを期に1953年に発刊されました。東西のお互いの地区が連絡を密にして共通の奉仕を目指すことが目的とされました。それから50年、先輩ロータリアンのご苦勞のおかげで、現在のような内容豊富な雑誌になっております。世界、日本各地の様々な奉仕活動や、ニュース、各月それぞれのテーマにちなんだ情報や知識、毎月巻頭に記される奥深い文章など、心して読めば随分価値のある雑誌といえます。

現在この印刷媒体の「ロータリーの友」と同じく電子媒体である「ロータリージャパン」も地域雑誌としてRIは規定しております。

又、「ロータリーの友」へは投稿参加も自由に出来ます。年1回の「地区の紹介」、「くらぶ探訪 手に手」「ロータリーアットワーク」「友愛の広場」「卓話の泉」などたくさんあります。様々なクラブ、地域の情報を発信されたら良いと思います。

「友」への接し方は色々あります。まずは身近なものとして、見直して頂き、活用をされる事が「ロータリー」への理解を深めることにつながるでしょう。

2008～2009年度 IM第5組報告

テーマ：「ここから始まる大阪の未来—大阪駅北プロジェクト—」
～新世代への贈りもの～

開催日時：平成21年2月7日（土）13：30～17：00
開催場所：大阪国際会議場（1003号会議室）
ホストクラブ：大阪リバーサイドRC（会長：清水英文）
参加クラブ：大阪ちゃやまちRC、大阪中央RC、大阪堂島RC、大阪北RC、
大阪北梅田RC、大阪西RC、大阪大淀RC、大阪西北RC、
大阪そねざきRC、大阪梅田RC、大阪梅田東RC、
大阪ユニバーサルシティーRC、
大阪リバーサイドRC

登録者数：309名
参加者：217名（来賓含む）

IM第5組

実行委員長 **中山 正隆**
(大阪リバーサイドRC)

今年のテーマを「～新世代への贈りもの～」と題して「大阪駅北プロジェクト」(通称北ヤード)を取り上げました。最後に残された大阪の一等地として注目され、関西再生の起爆剤として期待が寄せられているところです。私たち第5組のロータリークラブは、奇しくもこの北ヤードを取り囲むところに位置し、関わりを持たざるを得ません。そして、このプロジェクトは、ナレッジキャピタル(知的創造拠点)としての役割を持たせることをコンセプトに加え、産・官・学が一体となって世界にモデルとなる街づくりを目指しています。

横山ガバナーは今年度のIMのテーマとして「子供たちに光が当たる奉仕プロジェクト」を掲げられており、このプロジェクトを「新世代への贈りもの」として、次世代を担う子供たちにどのような未来を残せるか、との観点で取り上げたものです。

学の立場で、このナレッジキャピタルを先導されている鷺田清一大阪大学総長に、産の立場で、関西経済連合会から角和夫関経連常任理事(阪急阪神ホールディングス代表取締役社長)に、官の立場で、このプロジェクトを大阪市として推進されている北村英和大阪市計画調整局長に、そしてこのプロジェクトの取り纏め役である長島俊夫三菱地所代表取締役専務執行役員にパネリストとしてご出席いただき、子守康範さん(MBSラジオパーソナリティ)にコーディネートをお願いいたしました。

パネルディスカッション形式で2時間ほどの討論を行い、その後参加会員からの質疑応答という形で会員が参加する試みとしました。

知の集積地としてのナレッジキャピタルや環境先進都市大阪として環境に優しいコンパクトシティを目指しているといった具体的な計画を聞くことができました。参加者からは、具体的にどのような夢を実現できるのかといった突っ込んだ質問や環境への配慮を確認する質問が多く出され、また、大阪北RCからは、北ヤードに「ロータリーの森」を設ける計画が本決まりとなり積極的にこのプロジェクトに関わっていくとの表明がなされるなど、正に「夢をかたちに」がテーマの一日でした。

このプロジェクトに、ロータリークラブとしてまたロータリアンとしてどのように関わっていけるのかをお考えいただく縁(よすが)としていただければと願って取り上げたテーマでしたが、残念ながら時間が足りず、いただいた質問の半分も取り上げられませんでした。それでも、参加者には「新世代への贈りもの」をお土産としてお持ち帰りいただけたのではないかと思います。



日 時：平成21年2月1日(日)16:30～19:00

場 所：ハイアットリージェンシー大阪

参加者：横山G、大谷GE、笠原委員長、村橋副委員長、
北川副委員長、青木、稲邑、武島、米田、磯田各委員
大学指導教官、各クラブ会長、米山委員長、カウンセラー
計74名

地区米山奨学委員会

委員 磯田 郁子
(大阪東淀RC)

2008年度「米山奨学委員会 米山奨学生終了者歓送会」が上記のように開催されました。はじめに横山Gから挨拶があり、奨学期間を終える学生たちにお祝いの言葉とエールが送られました。その後、今年度で1年乃至は2年の奨学生を終了する留学生の皆さんに修了書の盾が、そしてカウンセラーのロータリアンには感謝状が横山Gより1人1人に手渡されました。次に笠原委員長から、「奨学金を受けた恩を日本で返してほしいなどという小さな気持ちはありません。お国に帰られてからお国の困っている人や助けが必要な人に返してもらえたらこの奨学金の意味があったと思います。そしてお国と日本のよき架け橋になってもらいたい。」と挨拶されました。

大谷GEのご挨拶と乾杯で始まった歓談・食事の後、奨学生の皆さんはそれぞれの米山奨学生としての思い出や感謝の気持ちなどを壇上で発表し、今までの奨学生としての期間の思い出を振り返っていました。その皆さんの表情は希望に満ちていました。「まだ私の国にはロータリークラブがないけれども、是非母国にロータリーを作って入会したいです。」「これからも日本と母国の

架け橋として活躍できる人間になりたいです。」「経済的な心配をすることなく学業に専念できて無事博士を終了することができたのはこの米山のおかげです。」「多くのロータリアンと出会えて勉強になりました。」などの感謝の気持ちを、初めて壇上で話した1年前或いは2年前とは比べものにならないほど上達した日本語で話してくれました。

また我が子のように見守ってきたカウンセラーのロータリアンからは「いい出会いができました。」「これからもずっと連絡を絶やすことなく付き合っていきたいです。」「彼の将来に大いに期待しています。」などの感想が聞かれました。

引き続き米山奨学生のOB会である学友会の会長・朴日(中国)さんから「これからは学友会に入って一緒に活動していきましょう。」という話があり、最後に村橋副委員長の閉会の挨拶で和やかなうちに開きとなりました。

米山奨学生としてはこれで終了ですが、今後もこのロータリーとの縁が末永く続くことを祈っています。最後に今年度米山奨学生を御世話いただきましたカウンセラーをはじめ、世話クラブの皆様にも深く感謝を申し上げます。



2008—2009年度 第2660地区 シェア会議報告

日 時:①2009年2月12日(木)午後3時~5時
②2009年3月14日(土)午後4時30分~5時30分
(臨時シェア会議)

場 所:①ガバナー事務所会議室 ②業業年金会館

出席者:①②の出席者(多くは重複)

横山守雄ガバナー(DG)、大谷透ガバナーエレクト(GE)、新谷秀一パストガバナー(PG)

江藤光哉地区社会奉仕委員長、地区財団部門委員長(佐藤俊一財団委員長、福家宏財団副委員長、津和章雅財団情報・増進委員長、辻川功一財団人道的補助金委員長、野村正勝研究グループ交換委員長)

戸田和孝次年度地区国際奉仕・WCS委員長、片山勉次年度地区社会奉仕委員長、次年度地区財団部門委員長(大竹洋一郎財団情報・増進委員長、山口勝之財団人道的補助金委員長、山下勝弘財団奨学金・学友委員長、吉川邦英研究グループ交換委員長)
◎次年度委員長の皆様にはオブザーバーとしてご出席頂きました。

地区ロータリー財団委員会

副委員長 **福家 宏**

(八尾中央RC)

シェア・システム Share System ロータリー財団に寄付をしますと、その金額に応じて3年後に50%がDDF(地区財団活動資金)、50%がWF(国際財団活動資金)に配分され、地区/クラブはこれらの資金を様々なロータリー活動に利用することが出来ます。さらにDDFには恒久基金の利息の50%が加算されます。このようなシステムをシェア・システムと呼びます。

シェア会議 2010年-2011年度に配分されるDDFは2007年-2008年度の年次寄付の50%+同年度の恒久基金の運用利益の50%です。2010年-2011年度に配分されるDDFの金額はロータリー財団管理委員会から2009年1月には通知されますので、地区財団委員会はこの金額をもとに、2010年-2011年度のDDFをどの活動にどれだけ配分し、あるいは寄贈するかを決定するための会議を主催します。この会議にはガバナー、ガバナー・エレクト、ガバナー・ノミニーにご出席頂き、ご指導を頂くと共に次年度、次々年度の方針や展望についてお話を頂きます。そのご指導やお話しに基づき、将来をよく見定めてDDFの配分につき協議し、決定するのがシェア会議です。

協議に先立って

司会:佐藤DRFC:財団関連のトピックス(ゲイツ財団からポリオ撲滅のための追加補助金2億5500万ドルの件など)

横山DG:財団のプログラムはクラブの活性化につながるべきもの。DDFの配分もそこを考慮するべき。未来の夢計画に基づき2013-2014年度から全く新しい補助金制度が始まるが、それまでの試行期間中に地区が希望し、ロータリー財団が決定する100のパイロット地区の一つになれば試験的に新しい制度の下での補助金利用が可能だが、

WCS活動の極めて活発な当地区はパイロット地区には相応しくない。これは当地区財団委員会の決定事項であり共通認識でもある。などのお話をされました。

大谷GE:次年度RIテーマ「ロータリーの未来はあなたの手のの中に」を解説。さらに地区としてのサブテーマ「ロータリーを身につけよう」を掲げて、ロータリアンとして奉仕の心、寛容の心、友情を大切に作る心、命をいつくしむ心を身につけて、ロータリーの公共イメージを高め、魅力あるものにする。これらのことを具体的に解説され、マジアベ財団管理委員長の語られた「ロータリー財団の役割」「未来の夢計画」について詳しく述べられました。さらに次年度年次寄付目標額についても言及されました。これらのことは無論来る3月28日のPETSや地区チーム研修セミナーの場で多くのロータリアンに語られることになるでしょう。

次々年度のDDF配分 2007-2008年度の年次寄付の50%は289,044ドル、恒久基金の利息の50%は18,596ドル、合わせて307,640ドルの見込みでした。しかし、未曾有の金融危機の影響を受けて、2009-2010年度以降の恒久基金の利息の50%のリターンは見込めなくなりました。従って2010-2011年度のDDF利用可能金額は約57万ドルになります。

ポリオ撲滅 ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団はロータリーの20年間にわたる卓越したポリオ撲滅活動を高く評価し、昨年度1億ドル、今年度2億5500万ドルの巨額の寄付金をポリオ撲滅のためにロータリーに託しました。これに対して、ロータリーは新たに2012年6月30日までにこれまでの1億ドルの寄付の上にさらに

1億ドルの寄付を上乗せすることを決定し、表明しています。これを受けて当地区のロータリアンはどのように応えて行くのかがシェア会議においても協議されました。

DDF配分協議 未来の夢計画に基づく新補助金制度のもとでは2013年以後剰余のDDFは次の年のDDF(名称は変更されるがそれに似た性格の活動資金)には従来と同じかたちでは繰り越されなくなるため、DDFは有効利用して繰越金を漸減させる方針を取ろうというコンセンサスを持って協議が進められました。横山DG、大谷GEのお話を十分理解した上、財団部門各委員長からご発言頂き、協議が進められた結果2010-2011年度DDFの配分が2/12シェア会議にて一旦決定しました。その後ポリオ撲滅の寄付金としてDDFを更に有効利用するという新しい方策が横山DGから示され、3/14臨時シェア会議において次ページの通りのバランスシートが承認されました。

臨時シェア会議 当地区ではロータリアンには次年度も1人年間2000円以上の寄付を呼びかけて参りま

したが、ゲイツ財団の巨額の追加寄付に応えるためRIはこれとは別に更に3年間で1億ドルの上乗せの寄付(4年間に2億ドル)をロータリアンに要請しています。従って皆様をお願いする寄付金も計算上次年度からは倍額になります。そこで当地区としては直ちに倍額の寄付を皆様をお願いするのではなく、DDFを最大限活用することとし、ポリオ撲滅のためDDF年間86000ドル×3年間の拠出を決定致しました。

ポリオ・フリーの世界 ポリオはまだ撲滅されていません。20年にわたるロータリーの活動によりポリオは99%撲滅されました。あと1歩なのです。しかしこの1歩はこれまでの99%の撲滅以上に困難です。ゲイツ財団の寄付金総額は3億5500万ドルです。ロータリアンがこれに2億ドルを上乗せして、5億5500万ドルを投入することは世界的なポリオ撲滅活動に、大きな弾みをつけて発展させることになります。ポリオ・フリーの地球を実現するには、今こそロータリアンの力が求められているのです。資金としてDDFは利用しますが、皆様のポリオ撲滅のための寄付金は年間2000円に留まることなく、1.5~2倍のご協力をお願い致します。

D-2660 DDFバランスシート

2009年3月14日臨時シェア会議議決

ロータリー財団委員会
 2009.3.14
 単位: US \$

	2008-09年度予算		2009-10年度予算		2010-11年度予算	
前年度DDF繰越額	379,794.72		434,617.47		283,622.80	
TRF新規DDF配分類	294,918.61		264,505.33		289,044.31	
DDF利用可能総額	674,713.33		699,122.80		572,667.11	
配分・分野	2008-9年度予算	使用見込み	2009-10年度予算	使用見込み	2010-11年度予算	使用見込み
<人道的分野>						
地区補助金	50,000	37,495.86	50,000	40,000	50,000	40,000
WCS MG	65,000	47,600	65,000	60,000	65,000	60,000
<教育的分野>	奨学金@23,000		奨学金@24,000		奨学生@25,000	
国際親善奨学生	9名 207,000	5名 115,000	5名 120,000	8名 192,000	8名 200,000	8名 200,000
GSEプログラム強化	0	0	2,500	2,500	2,500	2,500
<寄贈分野>						
Rセンター平和フェロシッパ	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
ロータリー平和および紛争解決研究プログラム	5,000	5,000	0	0		
低所得国のための奨学金基金プール	0	0	10,000	10,000	0	0
ポリオ・プラス・パートナー	0	0	0	0	0	0
ポリオ・プラス	10,000	10,000	10,000	86,000	86,000	86,000
分野別・配分総額	362,000	240,095.86	282,500	415,500	428,500	413,500
次年度への繰越予定額	312,713.33	434,617.47	416,622.80	283,622.80	144,167.11	159,167.11

研究グループ交換(GSE)報告

GSEフランス便り

地区研究グループ交換委員会

委員長 **野村 正勝**
(箕面中央RC)

3月1日に関西空港を飛び立ち無事同日シャルルドゴール空港に着きました。第2660地区のGSE委員会の皆様にはその節お見送りいただき大変有難うございました。お礼を申し上げます。

とにかくタフな一週間が過ぎ、今リヨンに来ています。イル・ド・フランスというパリ郊外の東地区に当たる第1770地区は大変広い範囲です。ここをあちこち動き回るわけです。写真は3月2日午前中ホテルの一室で今後の予定に聞き入る団員達です。奥の右から二人目が第1770地区のGSE委員長のRhodeさんです。機械技術のコンサルタントをされています。その右横が最初の訪問先のSenlis(ソンリス)というところのロータリークラブの担当者のRobertさんです。ICIという英国の有名な会社に勤めていたケミカルエンジニアだったそうです。今は自分でコンサルタントをしておられます。

私たちは先ずSenlisというロータリークラブを訪ねました。午後8時から例会が開始されます。今日までリヨンを入れて3つのロータリークラブを訪問していますが、いずれも午後8時からの開始です。一通り例会のビジネスが終わってから食事です。Senlisではこの食事後、大阪での壮行会で準備したものを皆さんに見ていただきました。約35分の発表の後、団員の和田さんが準備した習字の体験をしていただきました。皆さん興味をもたれたようで3名の方が体験しました。最後の方はSustainable Developmentを漢字で書きたいと言われ「持続的発展」を先ず和田さんが書き示してから、取り組みましたが結構立派なものが出来上がりました。これが終了したのが11時過ぎでここからホストファミリーへ行きます。

二つ目のロータリークラブはChantilly(シャンティイー)ロータリークラブです。優美なChantilly城で有名なところ。城の前の石畳の上をゆれながらゴルフクラブのクラブハウスに到着です。この日はここで例会に参加して食事の前に日本からのGSEの訪問を受けて団員の紹介がありました。食後、「フランス軍の戦略」という話を午後10時からフランス語で聞きました。ちんぷんかんぷんですがパワーポイントの絵を見ていると何となく緊迫した雰囲気は伝わります。ここでもSenlisと同じで午後11時をかなり過ぎてホストファミリー宅を訪ねました。どうしてこんなに遅いのかと言うとパリに勤めている方がいるので昼の例会が開催しにくいという事情があるようです。私たちは昼間はゴミの再処理場を見学したり、アグロ・バイオR&Dやエアーフランスの本社やブジョー・シトローエンの合弁会社を訪ねSenlisロータリークラブで出たsustainable developmentの話を何度も聞きました。そういえばSenlisで持続的発展と漢字で書いた人がエアーフランスに勤めていた方であったわけです。

その後訪ねたMelun(ムーラン)以降のことはまた最終報告書で書き記す予定です。第2660地区のガバナーを始め、皆々様の熱いご支援に感謝いたします。





ロータリーの基本精神としての 「サービス理念」と「職業奉仕」

R1元理事、パスト・ガバナー 菅生 浩三

私達は何のためにロータリーに入ったか？

- 1、職業奉仕の話をやよとのことですが、そのためには、どうしても「綱領」の「サービスの理念」のお話から始めねばなりません。
- 2、そもそも私達は、何のためにロータリー・クラブに入って活動しているのでしょうか。友達を作って楽しく過ごすためとか、困っている人や貧しい人を助けるためとか、社会をよくするためとか、外国の人々を理解して一緒に仲良く生きるためとかなど、色々なことが考えられますし、そのどれも正しいのですが、それだけでは、ロータリーとして一番大事な点が抜けているのです。それは、「サービス」という「理念」を理解して実行するためということです。何故でしょうか。「サービスの理念」は、「綱領」の中にその核心の原則として規定されています。そして、綱領は、標準クラブ定款第4条に掲げられており、私達ロータリー・クラブの会員は、同定款第15条の規定によって、「綱領の中に示されたロータリーの原則を受諾し、本クラブの定款、細則に従い、その規定を遵守し、これに拘束されることを受諾するものとする。そして、これらの条件の下においてのみ、会員は本クラブの特典を受けることができる。」のであります。お手許の定款をお確かめ下さい。またこの文章の末尾に、英文の原文を添えて、「綱領」を添付しましたが、実はこれは皆様のロータリー手帳の表紙の裏面のコピーであります。念のため付言し

ますと、和訳には不適切な部分が多く、是非原文を一読されることをお奨めしたいと思います。

サービスの理念

そこで本論に入りたいと思いますが、「綱領」は、本文と四つの各論から出来ています。綱領の本文においては、ロータリーの精神の基本が「サービスの理念」「The Ideal of Service」にあるとされ、ロータリーの目的は、社会の人々の役に立つ活動の基本として、「サービスの理念」という考え方を奨励し育てて行かねばならないとされております。ところで、「The Ideal of Service」が「奉仕の理想」と訳されていることは、皆様よくご承知のとおりです。しかしながら、わが国の社会には「Service」に該当する活動はなく、従ってこれを表現する言葉もないので、「奉仕」と訳するのは誤りであり、「Service」はそのまま「サービス」と訳しておいた方がよいし、「Ideal」は単なる成果の表現ではなく、不断の精神的努力の目標であるから、「理想」と訳すべきではなく、「理念」と訳すべきであるという議論があります。私は、「サービスの理念」と云っております。ところで、この「サービス」「Service」という言葉については、定款細則その他のロータリーの公式文章のどこにも定義がありません。何故でしょうか。この「サービスの理念」「The Ideal of Service」という表現は、1918年のカンザスシティの国際大会で採択されたロータリー・クラブ国際連合会の「綱領」

の中で初めて出て来た表現ですが、それはそれより以前の1911年のポートランドの全米ロータリー・クラブ連合大会で採択されたアーサー・フレデリック・シェルドンの、「最もよくサービスする者は最も多く報われる。」「He profits most who serves best」というモットーと、これに誘発されたフランク・コリンズの、「自分達だけのためであってはならないサービス」「Service not self」というモットーの中の“Service”という言葉から採用されたものであるからであります。設立当時のロータリー・クラブは、親睦と仲間内の互惠取引のためにある典型的な社交クラブでありましたが、このような状況から脱却するために、シェルドンは「取引をするにあたっては、自己の利益ばかりに執着するのではなく、相手方や取引の関係者その他社会一般の人々のためになるように考えて取引する者が、取引に成功する。」と唱え、コリンズは「クラブの仲間だけの利益を図る取引では駄目で、社会一般の人の利益となるような取引でなければならない。」と唱えたわけです。シェルドンのモットーは、“profit”という文字に表現されているように、当時のシカゴの経済的混乱に適応して人々を説得するために、取引に関する表現をとっていますが、その真意は究極的には精神的な意図を指向していたものと思われます。また、コリンズのモットーも、本来は取引の公正さを訴えたただけのものでありましたが、その後何故か「自己否定までしてするサービス」の意と解されるようになり、それでは極端すぎるとして「超我のサービス」「Service above self」と修正され、その意味も却って取引以上の精神的意味が持たされることとなって今日に至っています。このような次第で、サービスの考え方を現在及び将来に向けたロータリーの役割を踏まえて受け止めれば、次のようになるでしょう。

人は自分で生きていくものではありませんが、同時に他人のおかげで生きることができるのもあります。現に、私どもの財産の価値は他人様や社会

が決めていますし、人はいくら人間嫌いでも精神的に社会を離れて一人では生きることができません。自分で生きることすら、他人様のおかげで可能なのです。人は、物心ともに他人様とともに社会の中でしか生きられない存在で、しかも心を持った精神的な存在であります。従って、人は自分のことだけでなく、他人様のことを真剣に考え、他人様のために誠実に尽した充実感によって、初めて自分の幸せを手に入れることができるのであります。しかもこの「サービス」という考え方は、ロータリーだけの独占物ではありません。人間と社会の本質に由来する人間存在の基本を流れる真理であります。このことに気付いていない人々も沢山いますし、気付いても実行できないでいる人々も沢山います。そこでロータリーは、シェルドンやコリンズのモットーの考え方の流れに沿って、この「サービスという考え方」「The Ideal of Service」を一生懸命に提唱して、その実行に努めています。ロータリーは、人間社会とともに永遠であり、その基本は不変といわれる所以でありましょう。

ロータリーの4つの綱領

「綱領」には、その本文の後に、本文で謳い上げたことを具現化するために、さらに四つの事項を掲げていることは、ご高承のとおりであります。その「第一」から「第四」までですが、その中で最終的な結論は「第三」です。すなわち「第三」は、ロータリーの根本原理である「サービスの理念」を単に理解するだけではなく、私どもが活動する色々な面で実践し実現して行かなければならないことを説いています。ロータリーは、「ロータリアンの各自が、自らの個人生活、職業生活、社会生活において、サービスの理念を実践していくことを奨励し育てて行くこと」を、その目的としているのであります。そして、その際に私達がよく理解しておくべき点として、「第一」、「第二」、「第四」の三つの点を指摘しています。「第一」は、「サービスの理念」自体を人間社

会に普及することの重要性です。「第二」は、「サービスの理念」を実行する上で「職業」が持つ特異な価値の認識の徹底です。「第四」は、「サービスの理念」を国際社会に普及させる上での留意点です。先ず「第一」は、「サービスの理念」というロータリーの根本原理を人間社会に普及させ実現させて行くことの意義を謳い上げています。これはむしろ当然のことです。「サービス」「Service」という考え方は、人間社会の基本の真理ですから、ロータリーは、一人でも多くの人々との知り合いを広めることによって、「サービス」の考え方を人間社会に普及させ実現させて行くことが、すべての出発点です。そのためには、ロータリアンの各自が知り合いを広めることによって、「サービスという考え方」の普及とその実現のための活動に努めなければなりませんし、ロータリー・クラブもそのクラブ活動によって、「サービスの考え方」の普及とその実現のための活動への理解を深めて行かねばなりません。クラブの場合、先ずは親睦、出席、ロータリー情報などの活動によって、クラブの中で会員自体が「サービスという考え方」とその実現のための活動への理解を深めて行かねばなりません。次に会員増強や拡大のクラブ活動によって、新しい会員を迎え入れたり新しいクラブを作ったりして、「サービスという考え方」とその実現のための活動を広めて行かねばなりません。さらにそれだけではなく、広くクラブの広報活動によって、社会一般の人々に向けて、「サービスという考え方」とその実現のための活動を訴えて行かねばなりません。「第二」は本日の本論ですから、次項に述べることとして、次に「第四」は、国際関係の特異性に基づく国際奉仕活動の重要性を指摘しています。言語、習慣、価値観、宗教その他の文化の諸要件や歴史、地理、気候、資源などの存在要件を異にするあらゆる民族と国家が相互の理解に努め親善を実現して、「サービスの理念」を国際社会に普及させて行くことは至難であります。ロータリーは、「サービスの理念」

に結ばれた職業人の世界的組織やロータリー財団の活動を活用してこの障害を乗り越え、その実現に努めることを究極の目的としているのであります。

職業活動におけるサービス(他人のための職業)

そこで本日の本論の「第二」であります。この項は、ロータリーにおける「職業」とその価値についての考え方を謳い上げたものであります。すなわち、ロータリー精神の核心である「サービスの考え方」は、その意味を理解したり認識したりしただけでは不十分で、実行しなければ意味がありません。他人のことを真剣に考え、誠実に他人のために尽くすことを、実行しなければなりません。ポール・ハリスは、「社会に役立つ人間になる方法は色々あるが、最も身近で効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にある。」と述べています。しかし、何故そうなるのでしょうか。人は、物質的にもまた心理的にも、ニーズの固まりであります。社会は、そこに住む人々のニーズの海であります。人々のニーズは、自らで充たすものもありますが、その大部分は他人によって充たされるものであります。従って、「職業」とは他人のニーズを充たす作業であるということになります。社会は「職業活動」の集積であります。ロータリーは、社会をこのように見ているのであります。しかも、人々のニーズは人間存在の根源でありますから、「職業」が社会で占める意味と価値は正に根源的なものであります。そこで、「職業の活動」こそが、他人のことを真剣に考え、誠実に他人のために尽くすサービスの実行の基本となります。そして、このことをしっかり理解するためには、(1)先ず、社会において「職業」が占める意味と価値が最高であることを正しく認識し、(2)次に、その「職業」の質と充足度の水準をなるべく高く設定することに努め、(3)最後に、自己の具体的な「職業活動」を行うにあたってはそれが社会のために最善のものとなるように努めるという、三つの段階をしっかりと

理解しなければなりません。綱領「第二」の表現によれば、ロータリーは、「事業および専門職務の道徳的水準を高めること、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること、そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」を、その目的としているのであります。このように、この項は、ロータリーにおける「職業」の考え方を謳い上げたものであります。ロータリーでは、「職業活動」をよくすることが社会をよくすることであり、ひいてはその社会に生きる人々の幸せを確かなものとする所以であると考えているのです。

一般の社会では、「職業」は、自分の生計のための手段であるとか、財産形成のための手段であるとか、社会的な地位や名誉を確立するための手段であるなどと理解されています。このような考え方は、極めて常識的で、間違った考え方ではありません。しかしながら、このような考え方の「職業」は、いわば「自分のための職業」であります。そこで、その「職業」が社会的に正しい形で遂行されるようにするためには、人々の自我の恣意を排除するために、色々な制約を設ける必要が出て来ます。例えば、貪ってはならないとか、手を抜いてはならないとか、不正な手段を使ってはならないとかで、違反に対しては罰則を設けたり、行政的な規制をしたり、最近では内部告発を制度化するなどの努力が重ねられています。しかしながら、これらの制約は外部的なもので、外側から人間を制約しようとするものでありますから、その効果には限界があります。現に私どもは、世界の各地域における巨大な企業の衝撃的な不祥事や、もっと厄介な事に、社会の各層各面で絶え間なく発生している様々な人々の慢性的な非行に悩まされ続けています。ところが、ロータリーのいう「職業」とは、他人のニーズを充たすものでありますから、「他人のための職業」であります。「自分のための職業」から「他人のための職業」への意識の転換こそが、職業倫理の第一歩

というべきでありましょう。「他人のための職業」であれば、「自分のための職業」に必要であった多くの制約の大部分が不必要となるでしょう。「他人のための職業」自体が、正に私どもの心の内面の制約に基づくものであるからです。

安易な市場原理主義に警鐘

ご承知のように、マクロな見地から視れば、「サービスの理念」という人間関係の新たな視点と、その実行としての「職業」の価値の新たな構築は、アメリカにおける初期資本主義の腐敗と墮落に伴う堪え難い弊害の中から、その批判と解決のために自生した手法と成果でした。ところが、近時東西冷戦の解消と途上国の先進化への努力の具体化に伴い、かつて一旦は相当程度に抑制ないしは修正された筈の市場原理主義が、原色的なその至上主義の形で、グローバルな原則として復活して横行し、世界規模で、政治経済の環境のみならず地球の環境までが、致命的な劣化を余儀なくされております。我が国においても、新自由主義の名の下に、その安易な追従が行われました。その結果、戦後教育における心の教育の欠落と相俟って、あくなき拝金の思潮、格差の拡大と底知れない無気力や無感覚、社会規律をにべもなく無視する行為、人間に対する無慚な背信行為、業界における多種多様な偽装行為等が次々と多発しました。さらに、世界的規模で金融資本主義の破綻に先導された実体経済の危機的混乱を招来し、国際社会の劣化は放置出来ない状況にあります。かくて、ロータリーの「サービスの理念」と「職業倫理」は、今日の間人社会の難局において、社会の基本を規律する根本原理として、益々その輝きを増しているものと考え次第であります。

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある：

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

The Object of Rotary

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

First. The development of acquaintance as an opportunity for service;

Second. High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying of each Rotarian's occupation as an opportunity to serve society;

Third. The application of the ideal of service in each Rotarian's personal, business and community life;

Fourth. The advancement of international understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and professional persons united in the ideal of service.

台湾台北第3520地区とのマッチンググラント贈呈式に参加して

ガバナー補佐 **佐々木 宏**
(大阪大手前RC)

去る2月20日大阪大手前RCと台北百齡RCとのマッチンググラントの贈呈式が台湾台東地区で行なわれ参加して参りました。

第2660地区からの拠出金は4千ドルですが、関係する4つの地区と夫々のロータリークラブ、およびロータリーの財団の本部が協力しあって合計が4万ドルを越える寄付金がロータリーの財団から承認、拠出されることになりました。主催国の台湾台北の第3520地区および台北パイリンRC、パートナー台東第3510地区と台東海岸RC、国際パートナー第3450地区と香港トロハーバーRCとの共同事業となりました。

この寄付金がここ台東の4つの小学校の施設充実のため、教育器具、運動用具、保健健康医療用具などの購入や、また生徒の授業料の一部に使われることになっています。我が地区が当地域住民、子供たちにとって有益な活動に貢献できることとなりました。

ロータリーの活動の根源はご存知のように奉仕にあります。特に子供たちの貧困からの開放、健康的で安全な生活を保証することもロ

ータリー活動の重要な使命であり、この度の事業はこの目的に最も近いと思っています。

第2660地区の大阪大手前RCは台北パイリンRCと長く姉妹クラブの関係を維持し昨年引続きマッチンググラントを獲得しました。パイリンRCのメンバーのロータリアンとしての本質的、進歩的、友好的な活動は第3520地区でも高く評価されていると思いますが我が地区においても模範となるのではと思っています。

ここに第2660地区の横山ガバナーはじめこの事業の実現に努力していただいた方々に心からお礼申し上げます。



地区ローターアクト

代表 **森本 秀樹**
(大阪南RAC)

1月25日(日)に第2640・2650・2660・2680地区(ローターアクト)の4地区が集まっての四地区情報交換交流会が開催されました。今年度は第2650地区がホストとなり、からすま京都ホテルに4地区が集結しました。

この四地区情報交換交流会の開催は、2003～2004年度に大阪で行われた国際大会に向けての意見交換のために始まったものですが、2年前の2006～2007年度より関西四地区の情報の交換と親睦を目的に再開されました。

3年目となる今年度は、

- ① それぞれの思い・心をつにし、4地区のローターアクトクラブが一丸となり何か発信していくことができないか
- ② 一度で終わるものではなく継続してできるものを作っていくことで、ローターアクトクラブの知名度を高め、会員増強につなげていくという狙いのもと、「Heart 4 you ～まずはここから～」をテーマのもとに行われました。このテーマには、今回の交流会をこれからの4地区の活動基盤にしていきたいという願

いが込められています。

メインプログラムでは、各地区の特色あるクラブの奉仕活動の報告・紹介を行い、その活動内容をもとにディスカッションを行いました。第2660地区からは、吹田ローターアクトクラブと大阪北ローターアクトクラブが代表して活動紹介を行いました。

吹田ローターアクトクラブは、地域密着型の様々な活動(吹田市内で行われるくわい祭や市民マラソンへの参加等)を行っています。

大阪北ローターアクトクラブは、社会貢献事業(視力に障害のある子供達のための文庫「わんぱく文庫」への点字図書やお話し会)を行っています。

交流会の活動報告誌も作り、活発な意見交換、情報交換ができたと思っております。

同日に懇親会も行われ、地区内外を問わず幅広い交流を図ることができました。

関西4地区で全国のローターアクトクラブ活動をリードする、という強い意気込みのもと、今後とも結束を強め、活動に精進してまいります。



米山奨学委員会

地区米山奨学委員会より

2009年1月末	全国寄付金合計額	1,149,080,587円 (前年度比6.78%増)
〃	第2660地区寄付金合計額	61,943,831円 (前年度比4.30%減)
2009年1月末	全国寄付合計トップ10	
	1. 第2760地区	155,721,851円
	2. 第2650地区	71,340,369円
	3. 第2750地区	64,573,300円
	4. 第2660地区	61,943,831円
	5. 第2590地区	58,893,672円
	6. 第2770地区	55,695,820円
	7. 第2580地区	45,322,550円
	8. 第2820地区	41,534,000円
	9. 第2780地区	37,666,408円
	10. 第2640地区	33,322,400円

■米山功労者 (2009年1月) 次の方たちに米山功労者の称号が贈られました。

氏名	回数	クラブ名
江原 誠三	4回目	大 東 RC
樋口 秀和	4回目	大 東 RC
井上 忠信	4回目	大 東 RC
池田 實	4回目	大 東 RC
北本 良弘	2回目	大 東 RC
松原 清一	2回目	大 東 RC
中 恒夫	2回目	大 東 RC
小川 芳男	2回目	大 東 RC
鷺森 董	4回目	大 東 RC
大東 弘	2回目	大 東 RC
田中 祥介	4回目	大 東 RC
谷中 清孝	4回目	大 東 RC
金子 誠二	3回目	東大阪中央 RC
赤井ムツエ	4回目	茨 木 西 RC
馬場 孝志	5回目	茨 木 西 RC
宮里 唯子	2回目	茨 木 西 RC
中小路悦子	2回目	茨 木 西 RC
中西 隆英	4回目	茨 木 西 RC
野地 龍夫	5回目	茨 木 西 RC
大森 保子	5回目	茨 木 西 RC

氏名	回数	クラブ名
佐々木良高	5回目	茨 木 西 RC
清水 達也	2回目	茨 木 西 RC
田村 英明	3回目	茨 木 西 RC
坪内 隆	3回目	茨 木 西 RC
小林 杲	1回目	交 野 RC
増田 俊	2回目	箕 面 中央 RC
河佐 浩	2回目	大阪ちゃやまち RC
播磨 章一	6回目	大 阪 堂 島 RC
川村 俊明	1回目	大 阪 堂 島 RC
北 研次	4回目	大 阪 堂 島 RC
水山 章	5回目	大 阪 堂 島 RC
堀口 利夫	2回目	大阪中之島 RC
前田 隆司	3回目	大阪中之島 RC
秋元 延介	2回目	大 阪 梅 田 RC
飯田 正夫	5回目	大 阪 梅 田 RC
小林 博隆	1回目	大 阪 梅 田 RC
澤田 育治	2回目	大 阪 梅 田 RC
内海閑一郎	2回目	大 阪 梅 田 RC
上島 一夫	1回目	千 里 RC

■米山功労クラブ (2009年1月) 次のクラブに米山功労クラブの称号が贈られました。

クラブ名	回数
大 東 RC	32回目
茨 木 西 RC	12回目
大 阪 梅 田 RC	32回目

ロータリー財団

ロータリー財団

■ポール・ハリス・フェロー 次の方たちにポール・ハリス・フェローの称号が贈られました。(2009)

氏名	クラブ名	
松岡 武	東大阪中央 RC	1/30
山本 章	箕面中央 RC	1/16
増田 俊	箕面中央 RC	1/16
大塚英太郎	箕面中央 RC	1/30
石木 章悟	大阪東 RC	1/30
中川 清孝	大阪東 RC	1/30
古賀 伸一	大阪西 RC	1/30
西村真一郎	大阪西 RC	1/30

氏名	クラブ名	
吉川 悦正	大阪西 RC	1/30
林 邦彦	大阪西 RC	1/30
宮脇 一彦	吹田 RC	1/30
中島 好信	高槻 RC	1/30
西口 定雄	豊中南 RC	1/30
清水 文雄	豊中千里 RC	1/9
岩崎 利晴	大阪御堂筋 RC	1/30
脇 隆俊	大阪御堂筋 RC	1/30

■ポール・ハリス・フェロー 次の方たちはマルチプル・ポール・ハリス・フェローです。(2009)

氏名	回数	クラブ名	
中村与志夫	1回目	東大阪中央 RC	1/30
阪上 博史	1回目	茨木東 RC	1/30
川端 崇且	3回目	箕面 RC	1/30
芝野弘三郎	2回目	箕面 RC	1/30
多田 慶三	2回目	箕面 RC	1/30
川村 智一	2回目	箕面中央 RC	1/16
上野 弘之	3回目	箕面中央 RC	1/16
浦川 光雄	2回目	箕面中央 RC	1/16
横尾 定美	1回目	守口 RC	1/30
北村 昌幸	2回目	大阪東 RC	1/30
石崎 昭	3回目	大阪柏原 RC	1/9
三木 元昭	1回目	大阪大手前 RC	1/30
佐々木 宏	1回目	大阪大手前 RC	1/30
入野 敏夫	5回目	高槻 RC	1/30
菅野 茂人	1回目	八尾 RC	1/30
小倉 郁夫	3回目	八尾中央 RC	1/9
中井 敬和	1回目	八尾中央 RC	1/9

氏名	回数	クラブ名	
村上憲一郎	2回目	大阪中央 RC	1/30
麦谷 実	2回目	大阪中央 RC	1/30
西野 博子	1回目	大阪イブニング RC	1/30
川本 幹治	4回目	大阪堂島 RC	1/16
杉本 全司	1回目	吹田江坂 RC	1/9
今岡 真義	1回目	大阪本町 RC	1/30
首藤 隆平	1回目	大阪本町 RC	1/30
佐田 博之	1回目	大阪ちゃやまち RC	1/30
中神 秀明	2回目	大阪北梅田 RC	1/30
北村 譲	2回目	大阪中之島 RC	1/30
近藤 貞彦	2回目	大阪御堂筋 RC	1/30
角谷 真枝	1回目	茨木西 RC	1/23
小路 三郎	2回目	茨木西 RC	1/23
山本 高司	1回目	茨木西 RC	1/23
本多 至成	1回目	大阪咲洲 RC	1/30
山本 誠	1回目	大阪咲洲 RC	1/30

■ベネファクター 次の方たちにベネファクターの称号が贈られました。(2009)

氏名	クラブ名	
石崎 昭	大阪柏原 RC	1/9
杉浦 勝昭	大阪東南 RC	1/9
柿野 雅一	大阪平野 RC	1/23
渡辺 斌	東大阪中央 RC	1/30

氏名	クラブ名	
Cantatore Domenico	大阪船場 RC	1/30
沖 真一郎	大阪船場 RC	1/30
原田 太七郎	大阪西 RC	1/30

文庫通信 (258号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先

のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ロータリー情報として

- ◎ 「他人の金で奉仕をするという虚構」 佐藤千壽PG遺稿 2009 8p (D.2790 月信)
- ◎ 「ロータリーを見直そう」 千 玄室 2008 8p (D.2650 地区大会)
- ◎ 「識字力あれど識智力のない日本」 佐藤千壽・深川純一 [2008] 18p (D.2680 地区大会)
- ◎ 「決議23-34その存続の危機」 田中 毅 2008 12p (D.2710 IM報告書)
- ◎ 「ロータリー理解推進月間にあたって」 戸田 孝 2009 1p (D.2660 月信)
- ◎ 「ロータリー理解推進月間 (ロータリーの広報を考える)」 塚原房樹 2009 2p (D.2510 月信)
- ◎ 「「ロータリー理解推進月間」 足立功一 2009 12p (D.2500 月信)
- ◎ 「ロータリー理解推進月間によせて」 三軒久義 2009 1p (D.2640 月信)
 [上記申込先：ロータリー文庫 (コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
 TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
 開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

お知らせ／敬弔

お知らせ

■事務所 住所変更

大阪阿倍野RC、大阪天王寺RC、大阪住吉RC、大阪住之江RC
(2009年3月19日より4RCが同じ事務所になります。)

新住所：〒545-0052

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-2-20

大阪天王寺RCの電話：06-6606-8821

F A X：06-6606-8823

Eメール：変更なし

大阪阿倍野RC、大阪住吉RC、大阪住之江RCの電話、FAX、
Eメールアドレスは変更ありません。

お詫びと訂正

■月信3月号の記事に間違いがありました。

お詫びして訂正いたします。

(7ページ)

2008～2009年度 IM第6組報告
参加クラブ：(追加) 大阪城東

(8ページ)

GSE派遣メンバー紹介

団員 和田 聡子

(誤) 千里RC推薦 (正) 吹田RC推薦

敬 弔

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。_____

須山 知行会員 (守口RC)

2009年2月17日逝去 (享年92歳)

米山功労者 (マルチプル)

ポール・ハリス・フェロー

月信編集委員会からのおねがい

- ガバナー事務所への月信に関するご連絡は、FAXまたはE-Mailにてお願い致します。折り返し、できるだけ早くご連絡致します。
- 投稿は原稿（写真付きの場合は一緒に添えて）を掲載月の前々月20日までに、事務所必着でお送り下さい。原稿はなるべくパソコンでの作成をお願い致します。掲載の採否、字数の整理、並びに止むを得ない掲載月の変更等につきましては、月信編集委員会にご一任下さい。
- 物故会員のご連絡は、専用の用紙にてFAXをお願い致します。

- 今年度の月信につきましては、各クラブ理事・役員・事務局・備品用に、各クラブの会員数に応じて部数を設定し無料配布致します。また、ご希望の会員には有料（年間2,200円・1冊200円）配布とさせていただきますので、出来るだけ多くの方のお申し込みをお待ちしています。

○ 月信編集委員会 ○	
・ガバナー	横山守雄
・地区代表幹事	川崎 壽
・地区副代表幹事	西口宗宏
・担当地区幹事	播磨政明
・担当地区幹事	森脇 寛
・担当地区幹事	辻 幸雄
・事務局長	今井貢二
○ ○	

2008～2009年度 国際ロータリー第2660地区 【ガバナー事務所あんない】

事務局スタッフ

ガバナー	横山 守雄
地区代表幹事	川崎 壽
地区副代表幹事	西口 宗宏
事務局長	今井 貢二
事務局員	栗正 久美
	春名 志保
	大西 麻容

勤務時間

9：30～17：00

休日

土曜、日曜、祝日

ガバナー事務所に会議室を併設いたしております。
最多36名。(無料)
詳細はガバナー事務所までお問い合わせ下さい。

所在地・電話・ファックス

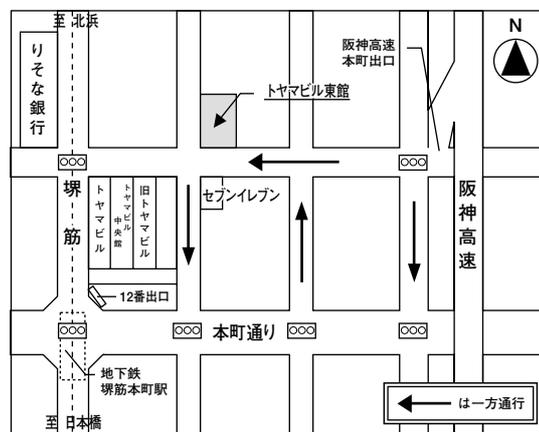
〒541-0052
大阪府中央区安土町1-5-11
トヤマビル東館6階
TEL：06-6264-2660
FAX：06-6264-2661

ホームページアドレス

<http://www.ri2660.gr.jp/>

メールアドレス

gov@ri2660.gr.jp



※地下鉄堺筋線・堺筋本町駅 12番出口すぐ